

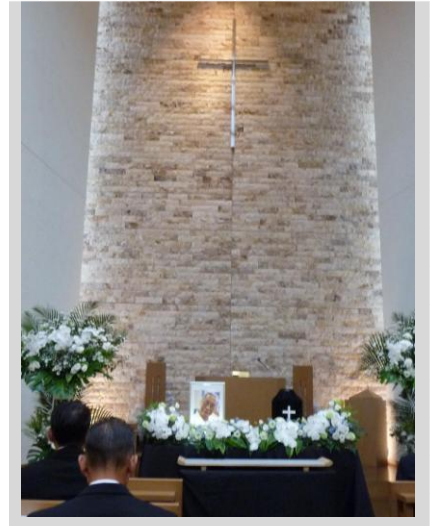
支部便り

平成22年9月みつわ会東北支部

戦ひの日に学びたりし信仰より

我はいくばく進み得たりし 岡直勝

去る7月3日、岡直勝さんが召されました。89歳でした。敬虔なキリスト教徒だった岡さんの葬儀は、仙台東一番丁キリスト教会で挙げられ、牧師さんから生前に詠まれた短歌が披露されました。その一句を掲載して偲びたいと思います。



9月の行事

	支部	みちのく損保
9月2日(木)		「みちのく食のアトリエ」
6日(月)		ゴルフ 「花の杜」
11日(土)		麻雀
22日(水)	※昼食会「しゃぶ禅」12時	

※定例第4木曜日が休日なので前日に繰り上げ。出席の連絡は9月15日(水)までに。

新入会員と初めての方へ：会費2千円、**出席**の連絡を業務伊藤さん227-3153、または佐藤友彦さん379-5287、または幹事の誰かに。是非是非！！

白井さんの人物往来 星利夫

若かりし頃、初めて親元を離れて盛岡に赴任し、白井ご先輩のもとにはほぼ10年、名実ともに直接御薫陶を受けましたが、その後もいろいろな形で御声咳に接することがありました。その中で大変驚きましたことは、交友の広さと、親交のあった方々が多岐にわたることです。

日新火災の事務所は、盛岡市呉服町(今の中の橋通り)にありました。昭和31年(1956年)当時その地区は、云って見れば、県都の金融街の中心に位置し、歩いて2、3分のところにルネッサンス様式を誇る岩手銀行本店

(本店新築後は中の橋通り支店)がありまして、お向かいには、岩手銀行の盛岡支店そして、私達の社屋の後ろには興産相互銀行(現在の北日本銀行)肴町支店がありました。地方営業における地銀、相銀対策が営業政策の柱となっていた時代です。当然のように早くから進出していた損保の中の5社が、この地区に事務所を構えておりました。安田火災、大正海上(合併前の三井海上社)、住友海上、同和火災、そして当社です。実に地の利を得た事務所でした。地の利がどのように、功

を奏したかは追々触れることになるでしょう。

私達の呉服町の通りに接して、岩手銀行本店所在地の紺屋町があります。平成22年3月の支部便りに大矢さんの筆になる格調の高いレンガ造りの建物が、加藤支部長のパソコンで見事に再現しております。盛岡のたたずまいを含めてもう一度ご覧ください。

当社の盛岡営業所は、当初その紺屋町にありました。紺屋町の名の通り、紫紺染め、茜染めの銘品を創り出す紫紺堂のみが残って全国的に有名ですがこの種の染め物屋が数軒あったので、その他、藁や竹等の天然素材を原料にした手細工の店、莫蔭九（森九商店とも云う、平成21年12月号の支部だよりで大矢さんの絵が掲載）の、そして広い敷地に沢山の貸家を持つ長岡家（文学座の長岡輝子の生家）もある街並みには、大矢さんご紹介の絵（21年9月支部便り）にありますように紺屋町番屋が立っています。平井酒造店の蔵屋敷を過ぎたその短い通りの中ほどにまた造り酒屋の屋敷があり、その家のお嬢さんが、井上美智子さんと言ひ当社の社員でした。その持ち家の一部を日新火災が借用して事務所に使っていたのですが、白井ご先輩がおられた昭和25年の当社の構成社員は、海老原所長の下、他は斎藤久五郎さんと井上女子社員でした。

ここを引き払って、金融街の中心に移転をしたことは名実ともに、新たな営業の展開を企図してのことでした。更に借り事務所から自前の事務所を持つにいたったことは、所員の士気に鬱勃たる雄心をもたらしたことは云うまでもありません。営業拠点の新設、移設は、いつの時代も大変重要なことですが、特に地方の損保界において、当時の地方経済振興の要請に答えよ

うとして積極的に地方企業の支援体制をとる地方金融機関との提携は、特に地方損保界に於いて最重要課題であり、その拠点对策の強化こそ緊要事でした。

このいきさつについては、当時の白井ご先輩の人脈の豊かさとともに間髪をいれない情報収集力の迅速さを、是非ともお伝えすべきことと思う次第です。

或る日、白井主任に、一つの情報が入りました。岩手銀行からの電話でした。O企画課長からです。それからの行動の早さは、見事でした。白井主任を迎えたのは、O企画課長とその担当常務のY氏でした。紺屋町の南に続く呉服町に元証券会社の建物があり、それを売りたいとの要請でした。その物件の所有者が、I銀行であり、他社ならぬ当社に白羽の矢をたてたこと、そして当時の損保拠点としてこの上ない好適な地に所在すること等を中心に一切の必要事項の確認を終えて、海老原（禮吉）所長への報告となりました。加島（重雄）仙台支店長の指示による本社稟議は、順調にことが運び、迅速に購入決定を見たものです。

このようにI銀行の要路に、多くの人脈がどうしておありになったかということには、仔細があります。と申しますのは、昭和20年（1945年）の第2次世界大戦終結後のある時期に、白井ご先輩は、当該銀行に勤務されていたのです。入社の際の動機は、I常務と知己の方の紹介で、昭和21年8月に入行し12月まで企画課に所属し勤務しております。その間、当時、労働組合の委員長のI課長より書記長を指名されて、組合の組織化に専念することになりましたが、企画課の担当業務も、経済の情報の支店への配布という単調そのものの仕事でありました。その時の課長への質問とその回

答。「何年で支店長になれますか」、「だいたい、10年程度でしょう」。そのような会話を交わしていくばくも無く、昭和22年8月、マッカーサー司令部による農地解放促進の第2次指令が発せられました。農地委員会による不在地主の整理が本格的になるとの稲瀬村からの緊急情報を受けて、急遽I銀行に退職願を提出し承認を得て故郷に赴くことになりました。その時、27歳、家族5人の世帯でした。所有農地は、意に反して自作地とは認められず解放地とされました。その後、当時の農村青年のために現金収入の一助ともなればとの、云って見れば農村振興のために、当時、生家の寺にあった会席膳などの売却による資金調達により、残された林地を活用して製炭業そして木工所を営み特にこけし、荷車の製造に力を入れました。需要に応じて採算も取れ利益を上げるようになったため北上市の本拠から支店を出す盛岡市に、家族とともに転居することになりました。

その時に偶然、軍隊で生活を共にした斎藤久五郎さんにお会いしたのです。

短期間ではありましたが、I銀行に在職した期間に、銀行内の上層部の方々ばかりではなく、いろいろな方々との交流、この人間関係が退職後も大事にされておられたことが、人脈の豊かさと結び付けられます。

そうなりますと離職後にどのような経緯で当日新火災に入社されたのかということになります。

まだまだ戦後の経済混乱が続いていた時代、マッカーサー司令部は、吉田首相に経済安定本部の強化を指示し、22年吉田内閣を引き継いだ片山内閣が、経済安定本部の強化とともに

8項目の「経済緊急対策」を打ち立てた中に「勤労者の生活と雇用の確保、雇用機会の拡大を図り～」の項目を設けるほど、海外からの引揚者・陸・海軍の解体による旧軍人、軍属のみならず旧満州、朝鮮からの一般人の引揚者等の雇用を受け入れる企業の態勢は、整っていませんでした。その一方インフレの急激な進行と通貨の収縮と徴税強化の進行のなかで企業経営の金詰りは、いよいよ深刻化、有効需要不足のための滞貨が増大、「安定恐慌」の様相が表面化しました。超均衡予算の下、大量な行政整理、民間企業の倒産により解雇・失業が増大、闇市場の縮小消滅に伴い潜在失業者も増えました。このような経済不振の状況の中で、人材産業ともいえる生・損保を含む金融業界は、戦中に欠落していた人員を早急に補充する必要に迫られていたため、新卒は勿論中途入社も積極的に進めていました。

そのようなときに、盛岡市内でばったりお会いしたのが、ご先輩の斎藤久五郎さんです。

前述の通り日新火災は、当時海老原所長、斎藤久五郎さん、設楽さん(後に自衛隊団体保険開発の際に訪問した時にお会いし種々便宜を計らっていただいた方で、当時盛岡の自衛隊の業務隊長2佐としておられたが、姓名がはっきりしません)という方3人の男性社員に、井上美智子さんという冒頭にご紹介した女性社員の方が、盛岡営業所のスタッフで、その設楽さんが退職したその欠員補充のための社員募集の情報が、斎藤さんからお聞きしたのです。このように、白井ご先輩が、日新火災に入社されるに至ったカギを握る方が身近におられます斎藤久五郎さんです。

次号に続く

「美しく生きる」

——千葉 繁明——

訪れたモーターショーで
一台のクラシックカー
の前で思わず足を止めた。なん
んという美しさだろう。流れ
るようなラインに深緑色の美
しいボディ、夢中になってス
ケッチをした。



1910年創立のイギリスのカーディラー「モーリスガレージ」
の頭文字MGを今も受け継ぎ、名工セシルキンバーの手により作り
上げられたMGA1500である。MG伝統のオクタゴンエンブレ
ムに飾られMGBから今はMGRV8となって一世を風靡している
名車である。

歴史と共に消えつつあるクラシックカーの美しさを、再現し蘇み
がえらせた作者の感性の素晴らしさに感激である。その感動、美しさを
今年の作品に描いてみた。タイトルは「美しく生きる」とした。



佐々木圭舟さん
からの残暑見舞

平成22年8月10日

最近、出かけるのも億劫、音だけの花火で我慢しています。

窓を開け耳を澄まして遠花火

玄関先の石畳、走って逃げる金蛇も愛嬌があります。

靴音に金蛇走る石畳

蚊遣り香もスーパーや大型の薬品店にも、店先にあります。豚の入れ物、
いまだ健在の夏の風物詩ですね。

眠る子と添い寝の母の蚊遣り香